音楽科学習指導案

大阪教育大学教員養成課程 兼平佳枝

【準備】

・柱は五、六、七弦のみに立て、五＝ミ、六＝ソ、七＝ラに調弦しておく。
・爪無し
・２人で１面

１．指導内容

〔共通事項〕音色（箏のさまざまな音色）と曲想

「指導事項」(3) 音楽づくり　ア(ア)、イ(ア)、ウ(ア)

２．単元名　：箏のさまざまな音色を意識してイメージに合う音楽をつくろう

３．対象学年：小学校第３学年

４．教　材　：箏の音色を探究する活動、探究した音色を使って音楽をつくる活動

５．教材について

【音楽の背景】

箏は、雅楽、筑紫箏、八橋検校以降の箏曲で用いられる。雅楽に由来する楽箏に対し、近世（八橋検校以降）の箏は俗箏と呼び区別されるが、元来、奈良時代に中国や朝鮮半島から伝来した楽舞及び日本列島古来の歌舞を源流とする雅楽に由来する楽器のひとつである。

構造としては、桐の木のくり抜いた箱状になっており、その上部はアーチ状で底部には板が張られており 13 本の絃をもつ。

【音楽のかたち】【音楽のなかみ】【音楽の技能】

初めて触る楽器を目の前にすると、まずは、どんな音が出るのか、衝動的に触って音を出したくなる。そこで、箏を自由に触らせることで、さまざまな音色が出ることに気づかせることにした。その過程では、箏の構造についても理解していくことができると考えられる。各絃は柱によって音程が調節されており、奏者の右手の親指、人差し指、中指にはめた爪によって絃を弾いて音を出すが、今回は初めて箏に触るため、爪をつけずに自由に音を鳴らすことができるようにする。まずは、箏の音色を探究させ、お気に入りの音色を選択させる。そして、4 人 1 組でお気に入りの音色を組み合わせて音楽づくりをさせる。その過程で生じるイメージに合うように、さらに音の出し方や音の重ね方、速度や強弱の変化等、つくって演奏するための技能を身に付けさせたい。

６．指導計画：（全３時）

ステップ	学　習　活　動	時数
経　験	○爪をつけずに自由に箏を触り、箏のさまざまな音色に気づく。	1
分　析	○箏のさまざまな音色を知覚・感受し、音楽づくりの工夫への手がかりを得る。	
再経験	○イメージに合うように見つけた音色の組み合わせを工夫する。	2
評　価	○つくった音楽を発表し、箏のさまざまな音色に関するアセスメントシートに記述する。	3

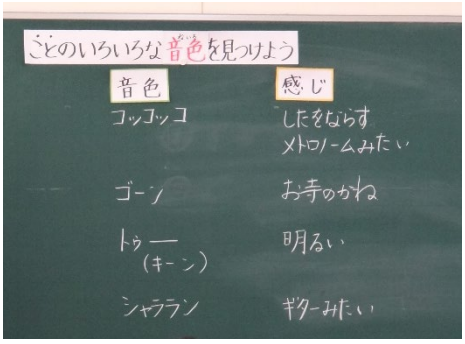
７．単元目標・評価規準

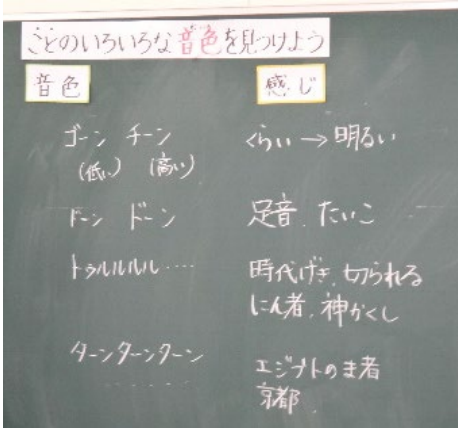
評価の観点	単元の目標・評価規準	具体の学習場面における評価規準
知識・技能	箏のさまざまな音色について理解し、イメージが伝わるように音楽をつくって表現できる。	★①箏のさまざまな音色を意識し、それらを組み合わせてイメージが伝わるように音楽をつくっている。 ★②アセスメントシートに用語についての理解を示している。
思考・:判断・表現	箏のさまざまな音色について知覚し、そこから生み出される特質を感受する。 箏のさまざまな音色を意識し、イメージが伝わるように表現を工夫する。	①箏のさまざまな音色を知覚・感受している。 ★②箏のさまざまな音色を意識し、イメージが伝わるようにそれらの組み合わせを工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	箏のさまざまな音色に関心をもち、意欲的に音楽をつくる。	①絃の弾き方や弾く場所によって音色が変わることに注目して友達の探した音色を聴いている。 ★②箏のさまざまな音色に関心をもって音楽づくりに取り組んでいる。

★は単元での子ども一人ひとりの最終的な評価を行うための評価規準を示している。

８．展開

活動のねらい	子どもの活動	指導者の活動	評価
経 験	爪をつけずに自由に箏を触り、箏のさまざまな音色に気づく。		
■自由に箏に触らせることで、さまざまな音が出ることに気づかせる。	１．箏を思いのままに触り、さまざまな音を出して遊ぶ。 T：お箏はどんな音が鳴るでしょう？いろいろ触って、実際にどんな音が鳴るのかをあとで教えてもらいます。 T:ただ、お箏を触るときのルールがあります。それは、①丁寧に扱うこと、②お箏を跨がないこと、です。これだけは気をつけましょう。では、どうぞ。	●「こんな楽器を知っていますか？」と言って箏を見せ、1300 年くらい前に中国から日本に伝わってきた楽器であることを知らせる。 ●ペアに１面の箏を用意し、箏の授業のルールを守ったうえで、時間を十分に確保して自由に触らせる。	
■箏のさまざまな音色に耳を傾けさせる。	２．見つけた音をクラスで伝えあう。 	●「どんな音が鳴るかな？」と問い、耳を澄ましてよく音を聴くように促す。 ●見つけた音を擬音語で言わせる。 ●子どもの発言を適宜とらえ、「『ビョ～ン』とか『ポーン』とか、聴こえた音を真似て声に出し、友達に伝えましょう」 ●知覚したこと（擬音語に関する発言）と感	主体的に学習に取り組む態度①（観察）

		受したこと（感じやイメージに関する発言）の対応関係がわかるように板書する。 ●「実は、みなさんが見つけてくれた『ビヨ～ン』とか『ポーン』とかいう音のことを音楽の言葉で『音色』といいます」と言って、「音色」という用語を知らせる。 ●子どもの様子を見ながら「こんな風に、たくさんのいろいろな音色を見つけましょう。何種類の音が見つけられるかな？」と言って、音探究をさせる。 ●状況に応じて、子供の意見を取り上げて随時発表させる。 「〇〇さんはこんな音を見つけました。」と言って、まずは見つけた音を皆に聴かせるよう促し、擬音語とどんな感じがするかを発表させる。	
■箏ではさまざまな音が出せることに気づかせる。	３．これまでに見つけた音の中で、自分が一番好きな音を探す。	●「たくさん見つけられたかな？その中で自分が一番好きな音はどんな音かな？それは擬音語でいうとどうなるかな？ワークシートに書きましょう」と言って、シートを配布して記入させる。	
分 析	箏のさまざまな音色を知覚・感受し、音楽づくりの工夫への手がかりを得る。		

■箏のさまざまな音色を知覚・感受させる。	４．自分が一番好きな音をクラスで紹介し合う。 T：お気に入りの音色を紹介してください。まずは、その音を鳴らしてみんなに聞かせてあげましょう。そして擬音語であらわすとどうなるか、どんな感じがするから好きなのかを教えてください。  T:〇〇さんの見つけたポーンっていう音色は、実際にプロの演奏家も使うピッチカートという奏法なんですよ。	●実際に音を鳴らしながら、擬音語とイメージを発表させる。 ●発表内容を共有できるように適宜音に帰して確認する。 ●知覚したこと（擬音語に関する発言）と感受したこと（感じやイメージに関する発言）の対応関係がわかるように板書する。 ●状況に応じて子どもが見つけた音色を取り上げ、ピッチカートやカラリン等、実際に箏の演奏時に使用する奏法であることを知らせる。	思考･判断･表現①（発言）
■表現の工夫への手がかりを得させる。	５．イメージを思い浮かべながら、友達が見つけた音色を真似して出してみる。 	●板書された内容から適宜抽出し、再度聴かせたり、真似して弾かせたりして、イメージが伝わってきたかどうか、伝わったのであれば、どんな工夫をしたのかを確認する。	
再経験	イメージに合うように見つけた音色の組み合わせを工夫する。		

■音色を組み合わせることによるイメージをもつことで、作品に対する思いや意図をもたせる。 	６．４人１組で各自のお気に入りの音を紹介し合い、それらの音を組み合わせて、グループでイメージに合う音楽をつくる。 T：班の中で自分の好きな音色を紹介し合いましょう。一緒に真似して弾いてもいいですよ。 T：これから、各自のお気に入りの音色を組み合わせて音楽をつくってもらいますが、試しに、A さん→B さん→C さん→D さんの順番で２～３回繰り返して鳴らしてみて下さい。どんな感じがするかな？ C：お寺で鐘がなっているみたいな感じ。 T：じゃあ、A さん B さん同時→C さん D さん同時で弾くと感じが変わるかな？ C：悪夢を見ているみたい。 T：なるほど、組み合わせ方で感じが変わるんだね。では、自分たちの班だとどんなイメージになるかな？やってみましょう。初めに誰が弾くかとか、どういう順番で弾くかとか、話し合いながらやってみましょう。	●紹介された音を真似して弾いてみるように促す。 ●4 名抽出してお気に入りの音色を紹介させた後、「では、これらの音色を組み合わせるとイメージは変わるかな？」という問いを出し、具体例を示して活動のイメージをもたせる。 ●①各自の音色を必ず使うこと、②音楽にタイトルをつけること、という 2 点を確認して活動させる。	★主体的に学習に取り組む態度②（観察）
■イメージを表すための工夫点に気づかせる。 	７．中間発表をする。 T：タイトルは決まりましたか？ C：「危険生物登場」です。 T：じゃあ、聴いている人はどんな危険生物なのか、どんな風に登場するのか、どんな工夫がされているのかを考えながら聴いてみましょう。 C：（演奏を聴いて）走ってるみたいな感じ。 T：走ってるみたいにするためにどんな工夫がされていましたか？ C：だんだん速くなってきた。 C：じゃあ、だんだん強くするとどんどん近づいてくる感じも出るんじゃない？ T：ちょっとやってみて。 C：（だんだん速く、強く演奏する） T：どう？どんどん走って近づいてくるみたいな感じが出てたかな？ C：でた、でた！ T：音の組み合わせに、さらに速度と強弱を工夫するとイメージが表せるんだね。	●工夫点が顕著なグループをいくつか取り上げて、中間発表をさせる。 ●発表班には演奏前にイメージを伝え、聴く子ども達には目を閉じるように促す。 ●感想を伝え合わせる。 ●子どもの音楽の要素に関する発言をとらえて「速度」「強弱」等の用語とかかわらせて確認する。 ●タイトルがなかなか決まらない班がある場合は、その班を取り上げて、クラスで考えさせる等して、手がかりを得られるように助言する。	★思考・判断・表現②（観察）
■さらに表現を工夫させる。	８．中間発表での工夫を参考にして、さらにイメージに合うように班で考えて工夫して演奏する。	●中間発表での工夫を参考にするように促す。	

評 価	つくった音楽を発表し、箏のさまざまな音色に関するアセスメントシートに記述する。		
■作品の交流を通して、それぞれの良さや工夫に気づかせる。	９．作った作品を発表し合う。 	●発表する前に、タイトルとイメージを伝えるように促す。 ●発表を聴いて気づいたことや感じたことを発言させる。	★知識・技能①（発表）
■学習内容について振り返りをさせる。	１０．自分たちの作品を振り返りアセスメントシートに記入する。	●自分たちの作品について、どんなイメージか、そのためにどんな工夫をしたのか、を記入させる。	★知識・技能②（アセスメントシート）

◎本学習指導案は、以下の学習指導案を参考にしている。

小島律子（2015）「プログラムⅠ－１－２ 箏のいろいろな音色を探究して音楽づくりをする」『義務教育 9 年間の和楽器合奏プログラム―生成の原理の立場から―』黎明書房，pp.25-27

参考文献

『日本音楽基本用語辞典』（2007）音楽之友社，pp.119-121

実際に子どもが記入したワークシート

ワークシート

ことのいろいろな（ 音色 ）を見つけよう

3年 5組 番 名前

じぶんがみつけた音でいちばんすきな音を書きましょう。

わたしの 一番好きな（ 音色 ）は、 擬音語で言うと パーン です。	なぜ 好きかというと ふうりんみたい な感じがするからです。

ワークシート

ことのいろいろな（音色 ）を見つけよう

3年 6組 番 名前

じぶんがみつけた音でいちばんすきな音を書きましょう。

わたしの 一番好きな 音色 ）は、 擬音語で言うと ドゥルレーン です。	なぜ 好きかというと 車がドリフトをしている みたいだから。 な感じがするからです。

実際に子どもが記入したアセスメントシート

アセスメントシート

ことのいろいろな音色を意しきして音楽をつくろう

3年4組　番　班 名前

つくった音楽を紹介しましょう。

タイトルは（花火	）です。
（楽しい感じや花火が上がっているよう	）な感じやイメージを表すために、
わたしは、（高い音を高速	）なならし方をして、
（パーン	）な音色を出しました。

アセスメントシート

ことのいろいろな音色を意しきして音楽をつくろう

3年4組　番　班 名前

つくった音楽を紹介しましょう。

タイトルは（おばけが やってくる	）です。
（こわい、近づいてくるよう	）な感じやイメージを表すために、
わたしは、（くつの音のよう	）なならし方をして、
（コツコツコツ コツ … というよう	）な音色を出しました。